

I 自己評価

|  |  |                                     |
|--|--|-------------------------------------|
| 1 学校教育目標   | 1 一人一人の個性を伸ばすとともに豊かな人間性を培う。<br>2 学力の向上とともに幅広い教養を身に付ける。<br>3 社会に貢献できる心身ともに健やかな生徒の育成を図る。   |                                     |
| 2 評価する領域・分野  | ◇図書部   |                                     |
| 3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等   | ・図書館の蔵書の充実と利用度では、生徒のA B評価は68.7%、C D評価は18.5%、Eわからないが8.8%であった。保護者についてはA B評価は70.5%、C D評価は5.7%、Eわからないが22.5%であった。昨年度のアンケート項目に入れておらず、アンケート結果の比較ができないが、昼休みや放課後の利用が昨年度より増え、貸出冊数が1.4倍増えた。特に1年生の来館者が多い。3年生は進路や授業に関連する図書の利用が多く、リクエストも多い。  |                                     |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標   | ◇本に親しみ、読書習慣を身に付ける取り組みを行い、授業での利用や貸出冊数を増やす。  |                                     |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制   | ・各学年、各教科（国語・社会、家庭、芸術、総合学習など）、分掌（進路指導など）との連携  |                                     |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組  | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標  |                                     |
| (1) 朝読書の実施（1週間を年3回）<br>(2) 図書委員主体の図書館便りの作成<br>(3) 効果的なディスプレイによる新着図書の紹介   | (1) 貸出冊数<br>(2) 授業や昼休み、放課後の図書室利用状況<br>(3) 朝読書週間の取組の観察<br>(4) 図書委員の活動状況   |                                     |
| 8 取組状況・実践内容等   | 9 評価視点   | 10 評価                               |
| ・GW開け、夏休み明け、それぞれ1週間ずつ朝読書を実施した。<br>・今年度の新しい試みとして、図書委員が職員にインタビューを行った。読書体験を語ってもらい記事にして、図書委員のお薦め本とともに月1回図書館便りで紹介した。放送による新着案内や利用の呼びかけを行った。<br>・図書委員が季節に関連したモビールを作り、図書館の雰囲気づくりをした。 | ① 貸出冊数は増えているか<br>② 朝や昼休み、放課後に訪れる生徒は増えているか。<br>③ 図書委員は主体的に活動しているか   | A (B) C D<br>(A) B C D<br>A (B) C D |
| 11 成果・課題   | ○12月までの貸出冊数が昨年度と比べ1300冊程増えた。<br>○昼休み、放課後の利用に加え、授業間の10分間休みの利用も増え、1日を通して利用されている。学年の割合は1年生35%、2年生20%、3年生45%となっている。2年生の利用は他学年に比べると少ないが、昨年度と比較して増えている。<br>▲生徒へのアピールはまだ不十分である。放送による呼びかけや職員へのインタビューなど、今年度からの新しい試みを軌道に乗せ、図書委員による全校生徒への働きかけがより活発にできるよう、仕掛けていく必要がある。   |                                     |
| 12 来年度に向けての改善方策案（学校評価アンケートを踏まえて）   | 「本校では、図書室に興味のもてる楽しい本をそろえており、生徒はよく利用している」の肯定的評価が68.7%であり、70%以上の肯定的評価とするために、以下の点に取り組み、図書室をさらに活性化させていきたい。<br>(1) 図書委員を通じた図書部からの働きかけを充実させ、SHRや昼休みにお薦め本を紹介していく。職員へのインタビューや、新着案内など放送でも積極的に紹介していく。<br>(2) 各教科の進度を聞き、関連本の特集を組んだりPOPなどで紹介したりする。授業での利用をHR担任、教科担任に働きかけ、授業をきっかけとして図書室へ足を運びやすい環境を作っていく。<br>(3) 生徒が本に親しみ楽しめるような行事を精選しつつ実施し、内容を充実させていく。 |                                     |

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

|   |
|---|
| 【意見・要望・評価等】<br>・インターネットやスマホの普及で、図書室へ足を運んで本を読む機会が少なくなってきたのではと感じているが、朝読書の取組などで貸出数が昨年と比較してとても伸びている。<br>・専門的な本を読む生徒は少なからずいると思うので、専門書を増やす努力が必要ではないか。 |
|---|